

コミュニティの活性化について

～地域とともにある学校～

5. 事務連絡

6. 閉会

【内 容】(概要)

2. 教育長あいさつ

本日はテーマを「コミュニティの活性化について～地域とともにある学校～」とした。

地域が子どもや学校とともに活動することで、地域の活性化や生きがいづくりに繋げていくためにはどうすればよいか、地域に焦点をあてたご意見をいただき、今後の方向性や進め方に反映させていきたいと考えている。

教育委員会では、小・中学校10校の調査研究校において、昨年度から小中一貫教育とコミュニティ・スクールを含む地域学校協働システムについての調査研究を踏まえ、平成30年度から小中一貫教育を全ての市立小・中学校に導入する。

またコミュニティ・スクールは、10中学校区で導入し、その後は準備の整った中学校区で順次導入する。

小中一貫教育については、義務教育9年間を貫く学びと育ちを系統的かつ継続的に行うことで、例えば、中一ギャップを含んだ各段階のギャップの解消を図ったり、そして、弘前を学び弘前を知ることを通して未来を支える弘前の子ども、「弘前っこ」を育てたいと考えている。

また、コミュニティ・スクールを含む地域学校協働システムでは、学校が抱える問題を、地域とともに解決に向けて取り組むことによって、地域とともにある学校の実現を目指すものでもある。

当市の将来を託すこととなる子どもたちが、豊かな想像力や発想力のある「弘前人」となるようにしっかりと育てていくために、教育環境の一層の整備、充実に取り組んでいきたい。

委員のみなさまには忌憚のないご意見をいただき、本会議が学校と地域をつなぎ、そしてまた、学校と地域がともに支え合って地域コミュニティの活性化につながる機会となることを期待する。

3. 座長あいさつ

本日の会議では「コミュニティの活性化」がテーマになっているが、この弘前市でも、人口減少、高齢化、価値観の多様化等により、地域活動の担い手不足が進んでいる。

その中で、子育て、教育についても地域の課題として地域全体が支え合あうことが今後さらに必要となってくると思う。

本日は弘前市の現状、現在の取り組みなどの説明があり、グループ討議

の中では、地域で何ができるかということについてご討議をしていただく。

新たにできること、学校や行政に代わって出来ることなど、委員のみなさまの立場や地域の一員だからこそ気づく点がたくさんあるかと思う。

市の取り組みにとらわれない積極的なご意見・ご提案をいただきたい。

4. 議事

コミュニティの活性化～地域とともにある学校～

(生涯学習課長)

・今なぜ「コミュニティの活性化」なのかをご理解いただくために、現在改訂作業が行われている弘前市経営計画について簡単に説明する。

・現在の弘前市経営計画は、平成26年度から29年度までの4年間を計画期間とし、少子高齢化や人口減少といった問題に対して、より戦略的な市政運営を行うことを目的に策定している。

・経営計画とは、地域経営の考え方を取り入れ、市民・コミュニティ・民間事業者、行政を含めた地域全体を一つの経営体として捉え、それぞれが協力・連携しながら計画的に地域づくりを進めていくこととしたものであり、その手法としてPDCAサイクルの考え方に基づく経営計画マネジメントシステムを導入して、施策や事業の進捗の評価と見直しを行っている。

・その経営計画の期間が今年度で最終年度となるため、現在改訂作業を進めている。

・第1章では、改訂後の経営計画は、期間を2018年度から2021年度までの4年間とし、現行の経営計画で定めている20年後の将来都市像「子どもたちの笑顔あふれるまち弘前」を、引き続き将来都市像とすることとしている。

・第2章では、その将来都市像の実現に向けて、「感性で「花」を育むまちづくり」を掲げ、弘前を象徴する桜の花、りんごの花のように人々の暮らしの中に幸福感を与えてくれる花、そしてまちの魅力として人を惹きつける花を育てるようなまちづくりを進めることにより、子どもたちの笑顔あふれるまち弘前づくりを目指すとしている。

・現計画と同様に、「ひとづくり」、「くらしづくり」、「まちづくり」、「なりわいづくり」の4つの観点を持ちながら進めていくこととし、教育委員会は、「ひとづくり」がメインとなる。

・第3章では、市の人口推計や経済動向、財政についての現状と課題・今後の見通し、さらには2025年問題の他、市内26地区での市民意見交換会や164の関係団体との意見交換、アンケート調査の結果、地域コミュニティの希薄化による地域の支え合いや活力の低下が懸念されるという市民の意見が非常に多いことを問題視している。

・そのための戦略として、第4章では、重点的に取り組むものをリーディングプロジェクトとして展開しようとするものである。

・リーディングプロジェクトは、(1) つながる・支える地域コミュニテ

イ～市民が支え合って暮らすあたたかいまち～、(2) 健康寿命の延伸と寝たきりゼロ社会の実現～予防・医療・福祉・介護の一体的連携により安心して暮らせるまち～、(3) 2025年に向けた早期対策～担い手の確保と安心の雪対策・公共交通による住みよいまち～、(4) 魅力あふれる暮らしと仕事の実現～訪れたい⇒住みたい⇒住み続けたいまち～、(5) 未来を創る人づくり～質の高い子育て・教育等による多様な人材が豊富なまち～の5つとなっている。

・リーディングプロジェクトには、「ひとづくり」の事業として教育委員会所管の事業が登載予定となっている。

・その中でも「つながる・支える地域コミュニティ」の先導的な計画事業として「地域の支えあい」の項目に、「教育自立圏構築推進事業」と「子どもの活動推進事業」を位置づけ、子どもの教育から高齢者の社会参加まで、地域全体で支え合う環境を整え、複雑化する地域課題に対し、地域全体で、きめ細やかな支援や取組を行うことによって、地域コミュニティの活動を活発にするというものである。

・第5章では、計画の進行管理、第6章では、事業展開プログラムを記載している。

・経営計画のパブリックコメントでは、概要版もあり、ホームページをご覧ください。市役所・出張所で確認いただきたい。

・次期経営計画の中で地域コミュニティの活性化を掲げ、リーディングプロジェクトの先導的な計画事業の一つとして位置付けられている「教育自立圏構築推進事業」において、4月から全市立小・中学校で小中一貫教育が始まり、コミュニティ・スクールを含む地域学校協働システムが順次始まる。

・教育自立圏構築を進めるには、教育委員会だけでできるわけではなく、地域の方々や関係者の協力がなければ、無理なことだと考えている。

・学校の様々な課題は、実は学校だけの課題ではなく、同時に地域の課題でもあることが多いと考える。

・学校の課題を地域の方々と一緒に解決していくことで、学校だけではなく地域にとってもメリットがあるのではないかと考えている。

・それが、今回のテーマである「コミュニティの活性化」ということになる。

・弘前市教育委員会の平成30年度からの方針「みんなが学ぶ、みんなと学ぶ、みんなに学ぶ」をもとに教育自立圏の構築が進められていく。

・教育自立圏の2つの柱として、「小中一貫教育」とコミュニティ・スクールを含む「地域学校協働システム」がある。

・地域の子どもたちを地域で育てるということを実践するためにも、「地域とともにある学校」を目指し、学校を核として、教職員、保護者、住民が連携・協働し、PTA、文化・スポーツ団体、関係機関（大学、消防、警察、福祉関係機関などを想定）、町会、活動団体等（地域づくり団体、NPO法人など地域で活動されている団体を想定）、そして企業がそれぞれ

れ手をつなぎ、地域とともにある学校をつくっていくことをイメージしたものである。

・学校を核として様々な方々が連携・協働して学校や地域課題を解決することにより、学校にとっては、家庭や地域住民の理解や協力を得ることによって、教育活動が充実し、教育の質の向上につながる。

・地域にとっては、子どもや学校とともに活動することで、地域の活性化や個々の生きがいづくりに繋がり、そのことでコミュニティの活性化を図ることができ、学校と地域それぞれが win-win の関係になることができると考えている。

・地域とともにある学校が抱える様々な課題を解決するために、各種事業に教育委員会が取り組んで、下から支えているイメージで、その課題には様々なものがあり、その中から大きなものを①～⑦の7つに絞り込んでいる。

・7つに区分しているが、複数が絡み合うものや、課題やキーワードも多くあると思う。

・委員の皆様には、7つの課題やキーワードを解決するために、個人あるいは地域として、団体や企業として支援できること、支援してほしいこと、事業や手法、アイデアなど、予算や既成概念にとらわれることなく、建設的な意見を自由に出していただきたい。

・すでに実施している事業についても改善することにより、こんな効果が考えられるのではないかということでもよい。

・さらには、支援や事業を実施することで、学校や地域にとってのメリットは何かを紙に書いて模造紙に貼っていただきたい。

・教育委員会の事業を簡単に説明しますが、これらにとらわれることなく、ご意見をいただきたい。

①家庭と地域の役割

・家庭と地域の役割はそれぞれあるが、近年、家庭や地域の教育力も低下していると言われ、学校にまかせていることも多く、家庭と地域の役割をしっかりとっていくべきだということである。

・課題やキーワードとしては、子どもの居場所をつくること、主体性の誘因、情報共有・連携・展開、生活習慣や食育、地域のネットワークづくり、分かりやすい情報と理解、住民・団体・学校・家庭の協力、学校外での体験活動のサポート、などがキーワードとして挙げられる。

・その下には、教育委員会での取組を記載している。例えば、生涯学習課では「コミュニティ・スクールをサポートできる地域住民との連携、情報共有」ということで、市内には中央公民館が3館、地区公民館が12館あり、その他に市内の小中学校区に11の学区まなびい講座があり、それらのネットワークを元に、コミュニティ・スクールをサポートできるような体制や情報共有をしていくための取り組みをしているもの。

・放課後子ども教室は、子どもの居場所づくりの一環として、「BiBi っとスペース」とともに現在行っている。

・その他にも各課でこのような事業を行っているが、地域や各団体などで

できることを考えていただく。

・例として、子どもの居場所をつくるために、町会の集会所や自宅を開放して、小規模な寺子屋的な場所を町会内につくったり、生活習慣や食育については、家庭内でのしつけや教育といった部分が必要になってくると思う。

・地域の方々が集まって、何かできることがないかを書いていただきたい。

②特色ある教育活動の推進

・郷土への愛着を深めてもらうことが1つの課題であり、キーワードにもなる。

・歴史・文化・芸術・文化財の活用と理解・継承、そして、地域が活性化することによって、地域の人々の愛着がわく。

・それから、事業支援、人材の育成、地域指導者の育成、調査研究と発信をキーワードと考えている。

・そのほか、現在行われている事業としては、学校づくり推進課での「ひろさき卍(まんじ)学」や、学務健康課では、「小・中学校の特色である学校づくり事業」で、学校に地域の方々が講師となって授業を行っている。

・これらのキーワードや課題の中で、地域や団体ができることを考えると、郷土への愛着を深めるために、子ども達と一緒にふるさとを探検するイベントを仕掛けたり、歴史・文化・芸術・文化財の活用と理解・継承のために、地域に居住する歴史に詳しい方と歴史や文化を掘り起こしたり、農業や商工業を体験したりすることができるのではないかと思う。

③教育の機会均等の保障

・主に、補助金などの制度の周知と理解、予算の確保、保護者の経済的負担、幼稚園と特別支援教育の振興、特別に配慮が必要な教育環境の充実、相談・連携等の体制づくりをキーワードまたは課題としている。

・特別に配慮が必要な教育環境の充実を図るために、地域の方々が学校で体験活動を行ったり、学校以外では、障がい者のための生涯学習を行うためにピュアフレンズのような活動を地域の中で広げていくことなどが考えられる。

④子どもの安全・安心、教育環境の確保

・児童生徒・保護者の不安や負担の軽減、学習環境の向上と教育環境の充実、通学路の安全と地域見守りの醸成、予算の確保、食物アレルギーへの対応、緊急時の対応がキーワードとなっている。

・通学路の安全と地域見守りの醸成では、前回この会議で話し合われた挨拶運動の取り組みなどであり、こうした取組を町会や団体でも広げてできるのではないか、地域の子供達は地域で育てるという気持ちを強くするために、地域を好きになるための何かを仕掛けるなど、いろいろなことが考えられる。

⑤の子ども・教職員の多忙化の解消

・部活動、スポーツ少年団、教職員の心身の健康、実技指導者の不足、教職員の働き方改革が課題、キーワードとなっている。

⑥のいじめ・問題行動・不登校の未然防止と早期対応

・いじめ・虐待・ネットトラブル・情報モラル・子どものストレス・教職員と保護者の理解と対応、早期対応の子どもの居場所づくり、集団あるいは学校に復帰するといった集団への復帰がキーワードとなっている。

⑦の学力の向上

・勉強への意欲、学習状況の把握、英語の教育改革と授業の充実、新たな教育課題、図書館の活用、保護者の理解と共有、人材確保と予算確保がキーワードとなっている。

・資料は、現段階での課題や現状、キーワードに対して、教育委員会が行っている主な事業を記載している。今後はさらに拡大したり、新たな課題に対する対策が記載されたり、変わっていくものと考えている。

・学校や地域だけで解決できない問題もあるかと思う。些細なことでも、こんなことができれば解決する、こうすればもっとよくなるなどを書き出していきたい。

○質疑応答

(委員)

・資料を見て感じたことを聞きたい。まず、これが出てきたのは家庭の教育力の低下やこのままではやっていけないということ、また、教師の多忙化もあり学校でやっていけないということで、地域のみんで助け合っていかなければいけないということでこの話が出てきたと思う。

・コミュニティ・スクールを目指すということだが、今までも一緒に学校と関わって連携はやってきた。協働となると先生と地域の助ける人が同じ立場でやっていくことになる。

・そうすると、⑤「子ども・教職員の多忙化の解消」とあるが、解消までいくのかどうか。なぜかという、これができたことで、地域コーディネーターとしっかり打合せをしていかないと入っていけないと思う。

・また、地域コーディネーターがきちんと力を発揮しないと、これは回転していかない。

・予算をつけて、先生方ができるだけ忙しくならないように取り組んでいかないと、絵に描いた餅のように思う。

・極論をいうと、地域コーディネーターがしっかりしていないと、学校間の格差がでてしまう。

・例えば、ボランティアが多い地域は、様々な面で手助けしてくれる方が出ると思う。地域によっては何人もいないと、その場合どうなるか危惧している。

・本当に多忙化解消を考えるのであれば、もっとあるのではないかと。枠が決まっているのに、様々な物をどんどん入れる、それだけでいいのか。

・具体的には、弘前が全国に先駆けて管理規則を変えて、冬休みや夏休みを上手く使うようにしていかない限り、増えるのではないかとと思うがどうか。

(事務局)

- ・このイメージ図は、皆さんにお示しするたたき台であり、これから変わるものである。
- ・皆さんから意見をいただいて、中身を詰めていきたいと考えている。
- ・今回で終わるのではなくて、更に掘り下げて、二回、三回と続けていければと思うので、今のような意見を出していただきたい。

(委員)

- ・このイメージ図は、分厚い資料を読むより、一枚でイメージづけられており、非常に理解しやすい。
- ・その中で、例えば、「関係機関」や「活動団体」、「企業」、など記載があるが、どういうものだと捉えるのか。
- ・例えば、そこに記載の例として、関係団体であれば子ども相談室、活動団体であればNPO、企業であれば、小中学校のインターンシップでお世話になっている所など、具体名が記載されると分かりやすい。
- ・常々思っていることが、教育自立圏について、これは市町村の定住自立圏というのがあるかと思うが、それとイメージ、言葉のニュアンスがいいということで、名前がついていると思うが、教育自立圏の目指すものや目標を、※印でもよいので表示があれば一層理解しやすいと思う。

(事務局)

- ・資料については、お話しがあったように一般市民でも見て分かりやすいように、注釈や例をつけるなどしたい。
- ・教育自立圏は中学校区によって様々なパターンがあり、抽象的な書き方になっているが、現在の書き方についてはご理解をいただきたい。
- ・グループ討議でお話いただき、ここをこうしたほうがよいといったことがあれば、出していただきたい。

(座長)

これから討議ということで、説明があった資料に関して、ご質問・ご意見がありましたが、現在の資料に対するご意見等も含めてこれからグループ討議をしていただくということでお願いしたい。

これから討議に入るが、グループ毎に意見を出し合ってもらい、それを付箋に記載したものをテーマ別にまとめ、最終的に報告をするという形でやっていきたい。

○A～Dグループごとに討議

○グループ報告

【Aグループ】

- ②「特色ある教育活動の推進」で出された意見
- ・自分で住んでいる地域、コミュニティでは、非常に疎遠で、なかでの繋がりが非常に厳しいが、一人一人と話をしてみると、非常に能力があった

り、知識、経験をもっていたりする人がたくさんいる。

・英語ぐらいならバンバンできる人がいっぱいいるという話であったり、世界旅行してきた人もいたりするという話で、そういう能力を持った人を引っ張り出すような仕組み・工夫が必要で、これを、様々な場面で学校教育に生かしていけないかということで、活用されていない人材が埋もれているという現状をなんとかできないか、なんとかしたい。

・伝統工芸とあるが、活用しきれっていないよいものも多くあり、そういう特色のあるものを教育に生かしていくべきではないか。

③「教育の機会均等の保障」で出された意見

・個性に合った教育ということで、高校進学、大学進学は均等ではないということで、例えば、弘前では地場産業も多くあり、そういう場面場面、場所場所で、様々な教育が展開されるべきで、型にはめるのではなく、地場産業などを生かしながらの教育も、ひとつの個性に合った教育ということで、これもなんとか工夫したい。

④「子どもの安全・安心、教育環境の確保」で出された意見

・春になり雪解けとなると、道路や公園がぐちゃぐちゃになり、子どもたちにはきれいな公園で遊んで欲しい、きれいな通学路で学校に通って欲しいということで、子どもたちと地域が一緒になにかできないか。

・除雪などは子どもたちのためにやっている。

⑤「子ども・教職員の多忙化の解消」で出された意見

・部活動では、指導する教員は非常に多忙で、ルールはルールとしてあるが、勝てば勝つほど忙しいので、ルールの徹底がまず1つの課題。

・それを少しでも緩和していけるのが、スポーツアシスタントで、それは、行政側の役割になると思うが、行政だけではなく、地域にお願いしていくことで還元されていく部分だと思うが、そういうところを予算と相談して、拡充していただきたい。

・スポ少としては、小学校の部活動をスポ少でということで、それが切り替わっている今の方向性を進めていきたい。これによって、子どもたちの体力向上や教職員の多忙化の解消に繋がっているのではないか。

・実技指導の支援や教員の見守り、子どもたちだけではなく、地域には先生も見守ってほしい。

⑥「いじめ・問題行動・不登校の未然防止と早期対応」で出された意見

・不登校を認めれば良いのではないか。

・今の時代、みんなスマートフォンなどを持っており、ネットワークをつないで、不登校の子たちのネットワークを活用した授業をやったらどうか。

・それが情報提供、情報交換し合うツールにもなり、それを学校や地域で情報を行き来させながら、少しずつ不登校の解消にも繋がっていくのではないのか。

・スポ少の活動があれば、良くも悪くも人間関係の構築に繋がるので絶対必要だということでやっているの、指導者の向上も必要になってくる。学校と指導者の連携がこれからもっと重要になってくる。

・参観日に父母の方がきても、授業を見てすぐに帰ってしまい、様々連絡すべき事項、共有し合う事項があるのに、こういった大切な話をする機会が減ってきているので、地域が一緒になって盛り上げていければ、それが良い方に影響し合って、学校もうまく回るようになるのではないかと。

⑦「学力の向上」で出された意見

・教科の勉強だけではなく、部活動や様々な地域の行事に参加することで、集中力がついていく。まず学力という考え方ではなく、まず地域行事という考え方もあるのではないかと。双方こなしながら集中力を高めて行けるのではないかと。

【Bグループ】

・話の中心としては、地域のコミュニケーションのアップが重要。

・例えば、挨拶運動も、学校の前や通学路、自宅の前でもやる場合は、その活動をしていることが分かるように、リボンをつけるなど目印になるようなものをつけて、協力している人だと分かりやすく、子どもに安心してもらえる工夫が必要。

・放課後のふれあいということで、空き教室を利用できないかと。

・コミュニティ・スクールについて情報発信が足りないのと、一般市民にも行き届くようになにかできないかと。

・自宅の前の雪かき等でも、地域の方から褒められればモチベーションが変わってくるだろうということ、雪があるから大変だ、という後ろ向きな考え方でなく、前向きな姿勢で感謝の心やねぎらいの言葉をかけあうようになると、地域の活性化にも結び付くのではないかと。

③「教育の機会均等の保障」で出された意見

・子ども食堂やボランティア学習支援ができるので、やり方の検討は必要にはなるが、さらに進めて行く必要がある。

⑥「いじめ・問題行動・不登校の未然防止と早期発見」で出された意見

・いじめの問題について、専門家などもいるので、ジャンプチームに対する活動支援や非行防止、早期発見もやっているのと、そちらへ協力ができるのではないかと。

・いじめの数についても情報発信がよくわからないので、深めて欲しい。

・いじめは食事、入浴、衣類の汚れなどでも見つけることができるので、地域では難しいだろうが、協力して早期発見に結び付けられればよい。

⑦「学力の向上」で出された意見

・弘前人を紹介したり、今活躍されている方を紹介することで、弘前に誇りを持てるのではないかと。

【Cグループ】

④「子どもの安全・安心、教育環境の確保」で出された意見

・災害が起きたときに学校が避難所になるが、子どもたちを助けるということもあるが、地域の方が避難所になる学校運営にも関わること、より効果が上がるのではないかと。

・雪かきしている人はその住民であることがわかるので、挨拶もしやすい。昨今は不審者も多いので声をかけづらいが、自宅前の雪かきをすることで、安全の保障にもなり、安全安心の通学路の確保にもつながる。

・給食を保護者にも食べてもらい、給食の食べ残しを正したい。子ども食堂も様々な活動をされているが、その中で効果的な動きとして、食べる前に大学生のボランティアが家庭教師のように学習支援を行い、その後でみんなと子ども食堂に食べに行くことが好評。しかし、こういったことに参加できる方は、様々な家庭の事情やプライバシーの関係で、本当に参加したい、参加しなければならない子どもは参加できているのか心配。

⑤「子ども・教職員の多忙化の解消」で出された意見

・教職員の多忙化の解消は、例えば、教育委員会として管理規則を変えてみる必要があるのではないか。その中で部活動を持っている先生は大変なので、特に初任者が大変になっているので、部活動の支援担当、地域の力も使ってなんとかできないか。

⑥「いじめ・問題行動・不登校の未然防止と早期対応」と⑦「学力の向上」もたくさんあったが、そこまで話ができなかった。事務方にも提案をいただいたので、それらを参考にしながら、事務方としていろいろ検討させていただきたい。

【Dグループ】

・付箋は少ないが、特に①「家庭と地域の役割」に絞って話します。

・二中の富士見保育所での大変有意義な取り組みで、弘前市全体でできるのではないかとこの提案を受けた。

・将来、保育士志望の中学生12名が給食と一緒に食べたり、絵本を読んでもあげたりした。その体験を振り返り、レポートにまとめた結果、将来、弘前で保育士になりたいという気持ちがより強くなった体験だったと話していた。

・これは地元の人が地元の子どもの育てることを、早い段階でやっていくことで、弘前の子どもが他県に流出することなく、弘前で活躍できる。保育士以外にも取り組めるもので、多くの職種で特化して育てていくことで、弘前の構築に向けた一つの手立てになるのではないか。

・県で取り組んでいる対話集会を東小、黒石高校で実施し、子どもたちにも好評で、この対話集会を通してお年寄りの話を聞いたり、様々な経験をしている大人と話合うことによって、自分たちにはどのような行動ができるかという、将来に向けた考えを構築できる対話集会が良い。

・食育フェスティバルのやり方で、例えば、保育所であれば食に対する家庭への発信が大切で、早い段階から食育について取り組んでいくべきではないか。

・少子化やスマートフォンで遊んでいる子どもが増え、外で遊んでいる子が減った。

・学校の施設をもっと開放すればよいのではないか。

・弘前には様々な企業もあるので、子どもたちに向けて開放して、この企業はこういう仕事なんだよということを教えたらいいのではないかな。

(座長まとめ)

今回紹介できなかった意見についても、教育委員会に持ち帰っていただいて、教育委員会で整理していただきたい。

多角的な視野から多くの意見をお出しいただき、このような多様性が教育創生市民会議の特徴だと改めて感じた。

今回のテーマとして、「コミュニティの活性化について～地域とともにある学校～」の目的は、説明があったように、地域の力を学校の教育の質の向上に、学校の力を地域の活性化の原動力にしていくことで、win-winの関係をもちたいということだと思う。

しかし、これを実現するためには、より具体的な方策・手立てが重要になる。そうしなければ、絵に描いた餅になってしまう。

本日の皆さまの意見は、この手立てを考える上で、非常に参考になるものだと感じている。

内容としては、教育やそれに関わる活動の体制・方法の工夫、情報共有の方法の工夫の仕方もあった。また、教育に関するシステムの再構築に関する指摘もあった。

このような多様な観点からの意見が具現化することで、活動の起爆剤になり、それが地域の力となり、学校の教育をサポートしていくものだと思う。

その一方で、きょうは地域の皆さんが学校に期待するものには、あまり触れることができなかった。双方向での働きかけにより教育自立圏が成り立つと思うので、地域の皆さんが学校にどういうものを期待するのかを話し合う時間がもてたらと思う。

今後、皆さんからの多様な意見を期待していますので、よろしくお願ひします。以上、私のまとめとします。

5. 事務連絡

平成30年度の会議の日程について連絡。